

知っておきたい豆知識

～ アルミボディと放熱能力 ～

走行中の負荷により E.S.C.内部温度が上昇し、性能の劣化や破損につながることは良く知られています。

内部温度の冷却は、回路で発生した熱を…

1. アルミ筐体に蓄熱させ、
2. その筐体から(自然ないし FAN 等により強制的に)放熱させる

…の順で行います。

ここで重要な Point は、筐体自体の蓄熱容量です。

筐体の蓄熱容量はアルミの容積に比例するため、薄いアルミ素材では高級感は演出できても十分な蓄熱機能は得られません。

ケース自体が熱を持たないのはこのためで、一見、発熱が少ないように感じますが実際は E.S.C.内部で熱のこもった状態といえます。

弊社ブラシレス E.S.C.【XARVIS】では一般のブラシレス E.S.C.に比べ、蓄熱量を増やす目的で、高コストながらあえて厚みのあるアルミ筐体を設計。

内部上昇温度が同じ場合、より発熱を感じるのはこのためです。

気流経路を計算した独自のケースデザインに加え、FAN 専用回路を搭載することで高効率冷却システムを構築しています。